

失敗や挫折した時に “十分に努力したか”と自問自答する。

今年4月から始まった電力の自由化。来春にはガスの自由化もスタートする。日本のエネルギー業界そのものが大きく変わろうとしている中、東京ガス株式会社宇都宮支社長の堀内忠氏は、「創業130年、地域のお客さまの豊かな暮らしや社会の発展のために、安定的に、安全に、都市ガスを提供し続けてきました。それは、今後も同じです」と、淡々と語りながら、これからに向けての熱い意欲を見せる。ガスと電力をセットにすることで付加価値をつけ、掲げた目標を達成しつつ、家庭用だけでなく産業用にも力を入れ、ガス・電力・付加価値サービスを提供する総合エネルギー事業を進化させている。大切なのは、お客さまとのネットワーク。「人ひとりの声に耳を傾け、お得で安全、簡単、便利をキーワードにお役に立てれば」と。高圧ガスの供給ルートは、今までの首都圏から北上する二つのラインに加え、茨城県日立から真岡までのインフラも整備し、現在は古河からつながるラインを整備中。清原工業団地では3社7事業所で、省エネ・CO2削減とBCP（事業継続計画）の強化を目的とした電力と熱（蒸気や温水）の供給をめざした清原工業団地エネルギーセンター（仮称）に着手。内陸型工業団地における国内初の環境に配慮した工場間一体エネルギー事業でもあり注目を集めている。この取組でも、グリーンなガス（CO2削減）の導入実績を持つ東京ガスの役割は大きい。これにより、企業の定着はもちろんだが、誘致にも効果的で、ひいては雇用を創出し地



豊かな暮らしを支える

域活性化の一役を担うものとなる。エネルギー確保は街づくりにも欠かせない要素で、栃木県や宇都宮市で推進している分散型エネルギーにも積極的に取り組んでいます。これからは、防災力のある分散型を目指すべき」と、家庭用燃料電池エネファームの設置拡充に力を入れ、年間200台を超える成果を出している。

一方では、ガスをキーワードに、さまざまな地域貢献活動を展開。平成17年から市内小学校を中心にエネ・クッキングを実施し、昨年、ものを大切にする心を育む、もったいない運動で会長賞を受賞。また、各種学校での授業やイベントを通して、エネルギーの上手な使い方やエコな暮らし、防災や美化などの提案をしたり、栃木SCなどスポーツ支援をしたりしている。

ただのガス屋じゃない

東京や埼玉でも自然豊かな地で生まれ育った堀内氏は、小さい頃は昆虫捕りに熱中し、小学校では野球や水泳、高校では槍投げに熱中していた。その傍ら、歴史や政経にも惹かれ、大学では証券研究会に所属。金融界で働くのが希望だったが、たまたま訪れた東京ガスの会社説明会で、「再開発や多様な生活基盤づくりなどの話が面白く、知らなかった事がいっぱいあって、ただのガス屋じゃないな」と思い入社したそう。

「どちらかというと、持久力よりも瞬発力を活かすほうが得意かな」と笑い、「大河ドラマが好きで、その影響なのか社会が得意だったなあ」と振り返る。歴史の魅力を問うと、「物事の答えはずいぶんではないし、歴史は、そのつとつと積み重ねることが興味深いですよ」と、思慮深さを伺わせるひと言。

20数年前の家族旅行先で、オオクワガタの無料プレゼントがあり、「娘3人はいらないうので、昔を懐かしみ自分で育てた」そう。だが、堀内氏の育てるには、尋常ではない。普通ひと夏の飼育で終わる人が多いのに、飼育の仕方の本を参考に、環境を整え幼虫を産ませ、増やし続けた。その数は、数百匹。飼育箱でガレージの棚がいっぱいになったそう。しかも、買い求めて増やしたのではなく、始まりの1匹からである。愛情の深さもさることながら、探求心と実践力の凄さに脱帽である。そのエピソードを語る際に、少年のような輝きも、「気が短い性格」と自己分析していたが、謙遜

「どうやら」と、持たし力よりも瞬発力を活かすほうが得意かな」と笑い、「大河ドラマが好きで、その影響なのか社会が得意だったなあ」と振り返る。歴史の魅力を問うと、「物事の答えはずいぶんではないし、歴史は、そのつとつと積み重ねることが興味深いですよ」と、思慮深さを伺わせるひと言。

20数年前の家族旅行先で、オオクワガタの無料プレゼントがあり、「娘3人はいらないうので、昔を懐かしみ自分で育てた」そう。だが、堀内氏の育てるには、尋常ではない。普通ひと夏の飼育で終わる人が多いのに、飼育の仕方の本を参考に、環境を整え幼虫を産ませ、増やし続けた。その数は、数百匹。飼育箱でガレージの棚がいっぱいになったそう。しかも、買い求めて増やしたのではなく、始まりの1匹からである。愛情の深さもさることながら、探求心と実践力の凄さに脱帽である。そのエピソードを語る際に、少年のような輝きも、「気が短い性格」と自己分析していたが、謙遜

ほりうち ただし
堀内 忠

昭和39年6月21日生まれ、52歳。東京でサラリーマン家庭の2人兄弟の長男として生まれ、小学校高学年から埼玉県で育つ。地元の小中高校を経て武蔵大学経済学部経済学科で学ぶ。卒業と同時に東京ガス株式会社に入社。現場はもとより総務、営業企画、経営、管理、人事、広報など幅広い分野で活躍。関係会社へ出向し常務執行役員を経験。平成27年4月1日付けで現職に就く。兼職に栃木ガス株式会社の非常勤取締役および、宇都宮大学客員教授を務める。自宅は東京都世田谷区で、現在単身赴任中。

今後のビジョンは、公的には「インフラ形成を進めながら、総合エネルギー事業の発展を目指し、さらに安全で安定的にガスの供給をしていきます。それには、一社でやるには限界があり、地域の皆さんに助けられながら取り組んでいきます」。個人的には「土日は、全てゴルフをしたい」とうそぶきながら、「もつと栃木を広く深く楽しみたい」と語った。エネルギーは、住民にとって欠くことのできない重要なライフライン。その地に住み、その地を知り、初めて、その地にあったサービスが提供できるというもの。楽しむという裏には、今いる環境を知るといふ大切な作業を無意識にしているのかもしれない。

事ある度に、「海軍兵学校で用いられていた五省（ごせい）の二節、努力に憾勿（うらみなかり）しか、を自問自答しています」。つまり、失敗や挫折した時に、「十分に努力したか」と内省しているということ。責任転嫁する人が多い昨今、なんとも深い。

【取材日：平成28年12月7日】

Profile